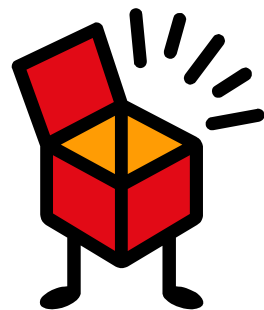


日立金属株式会社
2011年度第3四半期決算説明



Materials Mag!c

2012年1月31日

 日立金属株式会社
Hitachi Metals, Ltd.

<http://www.hitachi-metals.co.jp>

E-Mail : hmir@hitachi-metals.co.jp

11年度第3四半期(11年10月-12月)

売上高 1,455億円 (10/3Q対比 109%) 営業利益 168億円 (10/3Q対比 +47億円)

■需要動向

自動車関連分野 : 中国や欧州市場にやや減速感が見られたものの、国内市場の生産急回復もあり堅調に推移

エレクトロニクス関連: タブレット端末向け等の需要は堅調だがPC向けは低調に推移、液晶関連も調整が継続

産業インフラ分野 : 工作機械関連は調整が入ったものの、配管機器等建築関連は震災復旧対応もあり需要増加

■セグメント別動向(売上高・営業利益)

・高級金属製品セグメント : 売上高 541億円(10/3Q対比 96%)、営業利益 44億円(10/3Q対比△25億円)

・電子・情報部品セグメント: 売上高 469億円(10/3Q対比 132%)、営業利益 108億円(10/3Q対比 +67億円)

・高級機能部品セグメント : 売上高 447億円(10/3Q対比 106%)、営業利益 35億円(10/3Q対比 +3億円)

■海外売上高 566億円(海外売上高比率 38.9%)

北米 139億円(構成比 9.6%) アジア 320億円(構成比 22.0%) 欧州 88億円(構成比 6.0%) その他19億円(構成比 1.3%)

11年度通期見込

・3Q後半より欧州債務問題の影響から海外向け需要に減速感があらわれており、想定していた動きであるものの、生産棚卸の削減や固定費の削減を実施するとともに、次なる成長に向けた体質強化を行っていく。

・原材料価格(レアアース)については、下期に入り下がりがつつあるものの、価格水準はまだ高いレベルであり、引き続き原価低減等に取り組んでいく。

連結業績要約

[単位:億円、()は前年同期比]

	2010年度							2011年度						
	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	4Q 実績	下期 実績	年度 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績	3Q 実績	11年10月27日発表予想		
													下期	年度
売上高	1,269	1,273	2,542	1,338	1,322	2,660	5,202	1,294 (102%)	1,323 (104%)	2,617 (103%)	1,455 (109%)	3,083 (116%)	5,700 (110%)	
営業利益	120	99	219	121	91	212	431	109 (Δ11)	56 (Δ43)	165 (Δ54)	168 (+47)	280 (+68)	445 (+14)	
経常利益	107	85	192	113	71	184	376	100 (Δ7)	55 (Δ30)	155 (Δ37)	168 (+55)	250 (+66)	405 (+29)	
(特別損益)	Δ0	Δ6	Δ6	0	Δ9	Δ9	Δ15	Δ0 (±0)	Δ2 (+4)	Δ2 (+4)	Δ34 (Δ34)	Δ18 (Δ9)	Δ20 (Δ5)	
税前利益	107	79	186	113	62	175	361	100 (Δ7)	53 (Δ26)	153 (Δ33)	134 (+21)	232 (+57)	385 (+24)	
当期純利益	55	48	103	62	57	119	222	62 (+7)	6 (Δ42)	68 (Δ35)	79 (+17)	149 (+30)	217 (Δ5)	
設備投資額	34	48	82	49	73	122	204	42 (+8)	59 (+11)	101 (+19)	48 (Δ1)	179 (+57)	280 (+76)	
減価償却費	67	68	135	73	76	149	284	66 (Δ1)	68 (±0)	134 (Δ1)	69 (Δ4)	152 (+3)	286 (+2)	
研究開発費	27	30	57	32	33	65	122	28 (+1)	30 (±0)	58 (+1)	31 (Δ1)	72 (+7)	130 (+8)	

2011年度第3四半期業績概要

売上高 1,455億円 10/3Q対比 109%

高級金属製品セグメント 541億円 (10/3Q対比 96%)
 電子・情報部品セグメント 469億円 (10/3Q対比 132%)
 高級機能部品セグメント 447億円 (10/2Q対比 106%)

■高級金属製品セグメント

特殊鋼は、工具鋼は海外需要に調整の動きが見られたものの、国内需要は好調に推移、エネルギー関連も堅調、電子金属材料は液晶、半導体関連とも調整が継続。ロールは国内需要は低迷継続したが、新興国需要で伸長。

■電子・情報部品セグメント

マグネットは、FA・家電向けに調整があったものの、自動車関連は国内生産の回復もあり好調に推移。情報部品は、スマートフォン向けは好調だが、携帯電話関連の生産調整や太陽光関連製品の在庫調整が続き低調に推移。アモルファス(軟磁性材料)は、中国での入札手続遅れの影響が続き減少。

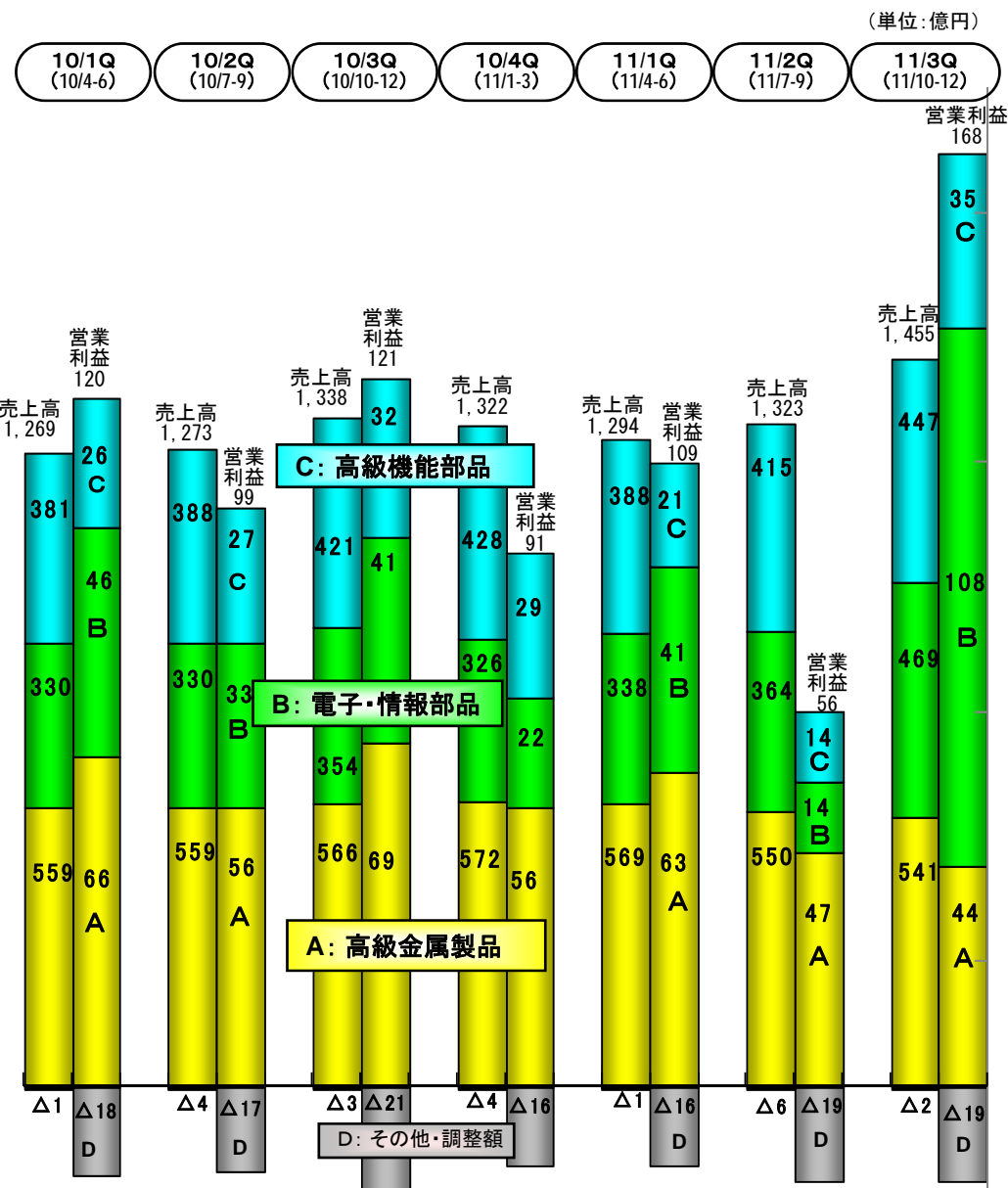
■高級機能部品セグメント

自動車用鋳物は、ダクタイル鋳鉄は米国・アジア市場での販売が好調に推移、ハーキュナイトは欧米の自動車メーカー向けを中心に需要継続、アルミホイールは国内は堅調、海外も回復。
 配管機器は震災後の復興需要や建設持ち直し等により増加。

営業利益 168億円 10/3Q対比 47億円増

高級金属製品セグメント 44億円 (10/3Q対比 25億円減)
 電子・情報部品セグメント 108億円 (10/3Q対比 67億円増)
 高級機能部品セグメント 35億円 (10/3Q対比 3億円増)

国内自動車生産の回復や海外需要等により、稼働が堅調に推移、原価低減効果も寄与し前年同期対比で増益となった。



2011年度業績予想

売上高 5,700億円 (10年度対比 110%)
営業利益 445億円 (10年度対比14億円増)

■高級金属製品セグメント

売上高 2,190億円 (10年度対比97%)
 営業利益 200億円 (10年度対比47億円減)

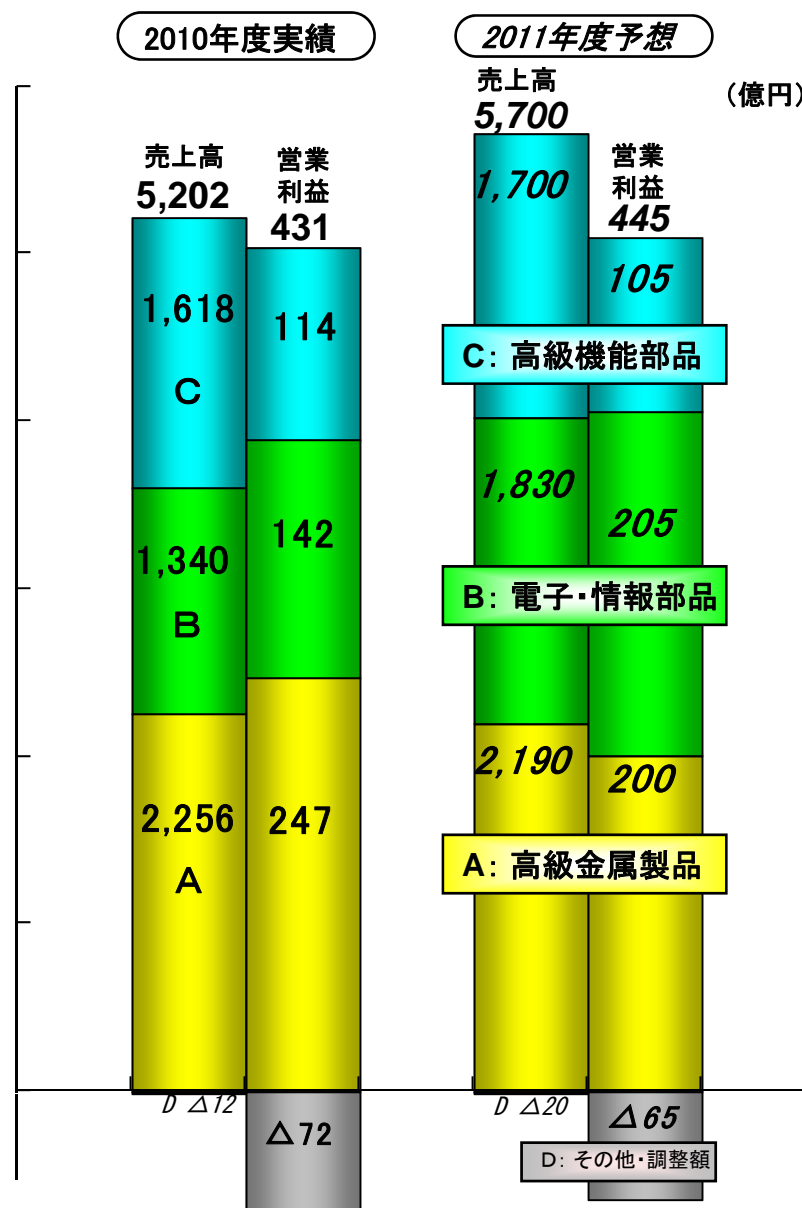
■電子・情報部品セグメント

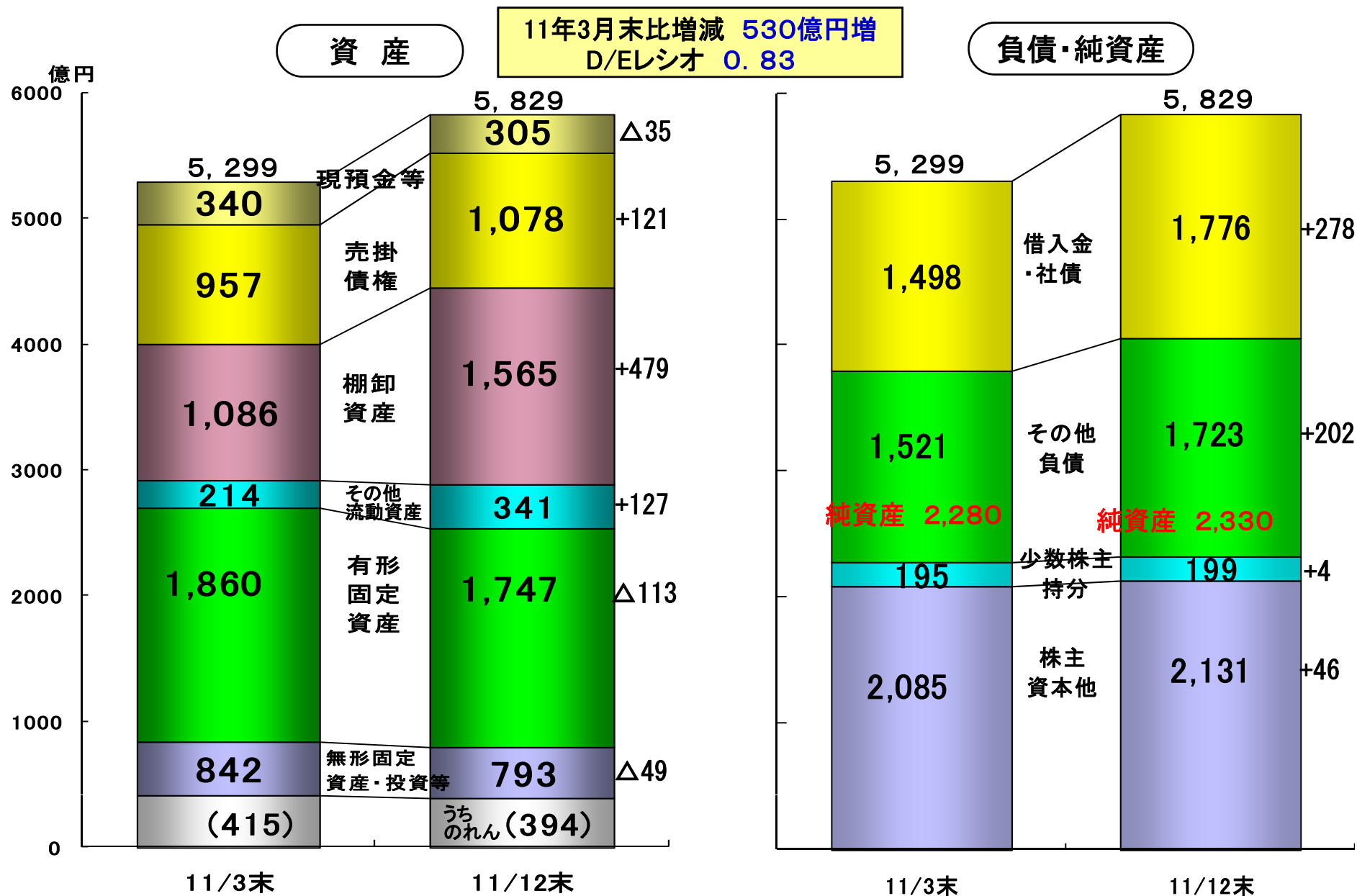
売上高 1,830億円 (10年度対比137%)
 営業利益 205億円 (10年度対比63億円増)

■高級機能部品セグメント

売上高 1,700億円 (10年度対比105%)
 営業利益 105億円 (10年度対比9億円減)

・欧州債務問題の影響から海外向け需要に減速感が見られており、関連する製品の生産調整を行うとともに在庫管理の徹底を実行していく。





連結キャッシュ・フロー

(億円)

科 目	10年度 第3四半期累計	11年度 第3四半期累計
現金及び現金同等物期首残高	436	340
税金等調整前当期利益	299	287
減価償却費	208	203
棚卸資産の増減	△231	△513
その他	54	△83
営業キャッシュ・フロー	330	△106
設備投資	△131	△149
その他	△35	4
フリーキャッシュ・フロー	164	△251
借入金・社債の増減	△148	293
配当金支払他	△60	△60
ネットキャッシュ・フロー	△44	△18
為替換算差額他	△34	△17
増加額または減少額合計	△78	△35
現金及び現金同等物期末残高	358	305

(注) 設備投資は検収ベース

(参考) セグメント別事業内容

事業セグメント	事業ユニット	主要製品
高級金属製品セグメント [2009年度実績] 売上高 1,879億円 営業利益 65億円 [2010年度実績] 売上高 2,256億円 営業利益 247億円	特殊鋼カンパニー	高級特殊鋼[YSSヤスキハガネ]: 金型・工具用材料、電子金属材料[ディスプレイ関連材料、半導体等パッケージ材料]、産業機器・エネルギー関連材料、剃刃材および刃物材
	ロールカンパニー	各種圧延用ロール(鉄鋼・非鉄・非金属)、射出成形機用部品、構造用セラミックス部品、鉄骨構造部品
	日立ツール株式会社	切削工具
電子・情報部品セグメント [2009年度実績] 売上高 1,059億円 営業利益 71億円 [2010年度実績] 売上高 1,340億円 営業利益 142億円	NEOMAXカンパニー	マグネット(希土類磁石[NEOMAX [®]]・フェライト磁石等各種磁石およびその応用品)
	情報部品カンパニー	情報通信機器用部品(積層部品、アイソレータ)、IT機器用材料・部品、医療機器用材料・部品、ソフトフェライトコアおよびその応用品、ナノ結晶軟磁性材料[ファインメット [®]]およびその応用品、アモルファス金属材料[Metglas [®]]およびその応用品
	軟磁性材料カンパニー	アモルファス金属材料[Metglas [®]]
高級機能部品セグメント [2009年度実績] 売上高 1,380億円 営業利益 55億円 [2010年度実績] 売上高 1,618億円 営業利益 114億円	自動車機器カンパニー	自動車用高級鋳物部品(排気系耐熱鋳造部品[ハーキュナイト [®]]、高級ダクタイル鋳鉄製品[HNM [®]]、アルミホイール[SCUBA [®]]、その他アルミニウム部品
	配管機器カンパニー	設備配管機器(印各種管継手、ステンレスおよびプラスチック配管機器、冷水供給機器、精密流体制御機器、密閉式膨張用タンク)
	日立機材株式会社	建築部材(内装システム、構造システム、マテハンシステム)

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米国、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動